

2022 年度

大同大学教育開発・学習支援センター活動年報

- Section. I センター長総括
- Section. II 2022 年度 FD 講演会「見やすい講義スライドや資料の作成」
- Section. III 2022 年度研究授業・授業研究会開催実績
- Section. IV 2023 年度研究授業・授業研究会開催予定

『より発信する FD へ』

教育開発・学習支援センター長 高山 努

このたび、新たに「大同大学教育開発・学習支援センター活動年報」を発行することになった。ここでは、その経緯について説明したい。これまで大同大学教育開発・学習支援センターの刊行物としては、所報誌「授業批評」があった。授業批評は研究授業・授業研究会が開始された 2001 年度より「教育年報等の刊行に関する要項」に基づき発行されてきたもので、本学の教育力の向上に大いに貢献してきたし、これからの貢献も期待されている。一方で、授業批評には研究授業・授業研究会等での教育改善のための議論を掲載する都合上、率直な意見や個人名の記載もあることから、刊行当初から学内限定閲覧となっている。そのため、同時掲載される FD 講演会やシンポジウムなど、学外にアピールできる本学のすばらしい取り組みも学内限定閲覧となってしまっていた。そこで、本学の FD の取り組みを学外にも発信し、学外の教育関係者も巻き込んだ FD の新たなステージに発展させるべく、この「大同大学教育開発・学習支援センター活動年報」を発行することになった次第である。

記念すべき第 1 号には、2022 年 FD 講演会、2022 年度研究授業・授業研究会開催実績、2023 年度研究授業・授業研究会開催予定を掲載させていただいた。特に、2022 年 FD 講演会で講師を勤めていただいた大同大学情報学部情報デザイン学科の桐山岳寛先生の講演内容はすばらしく、参加者アンケートでは 100%が「本日の講演会の内容が自分にとって参考になった。」と回答した。このように、学外に発信すべき知見を持った人材が大同大学にはいる。その方達の知見を、より広く社会に発信し、共有していくことが、大学としての社会的使命であろう。今後は、学内の教職員に役立つ記事を掲載していくのはもちろんのこと、学外の皆様にも役立つ情報を発信して行きたいと考えている。

「大同大学教育開発・学習支援センター活動年報」は、「教育年報等の刊行に関する要項」に記載されているとおり、「本学の教育の改善に資することを目的として刊行する。」ものである。今後は、学内外の連携を期待する FD は「大同大学教育開発・学習支援センター活動年報」に、学内で探究する FD は「授業批評」に掲載することで、さらなる本学の教育力の向上を目指すものである。

【開催要項】

開催日時： 2023 年 3 月 6 日（月） 14:00～15:30

会場： 遠隔（Microsoft Teams を利用）

テーマ： 『見やすい講義スライドや資料の作成』

講師： 桐山 岳寛（大同大学情報学部情報デザイン学科／講師）

研究テーマ／インフォメーション・デザイン

概要： 発表スライドや配布資料をわかりやすくするためのコツをご紹介します。レイアウトや色彩などデザイン学の基礎的な考え方から、言葉の選び方まで、情報伝達に欠かすことのできないポイントについて事例を交えながらお話しします。

趣旨： 遠隔やハイブリッドなど、対面以外の方法で授業運営をおこなう機会が増えています。これにより、対面授業の際には問題になりにくかった「資料の見辛さ」が、教育の品質や受講者の学習意欲を低下させてしまうことが懸念されます。「わかりやすさ」が常に求められる時代にあって、授業を行う側にとっても、授業を受ける側にとっても、見やすく、わかりやすい資料の作成はこれまで以上に重要になっています。ここでは、見やすく、わかりやすい資料を作成するためのコツやテクニックの話題を通して、みなさまの今後の講義、発表等の一助にしていだければと思います。

【参加者数】

| | | | | | | |
|------|------|------|-----|-------|------|---------|
| 専任教員 | 63 名 | 特任教員 | 1 名 | 非常勤講師 | 36 名 | |
| 事務職員 | 15 名 | 技術員 | 3 名 | 高校教員 | 4 名 | 計 122 名 |

【開催趣旨まとめ】

教育開発・学習支援センター副センター長 原田 昌明

2023 年 3 月 7 日(月)に「見やすい講義スライドや資料の作成」というテーマで FD 講演会を開催した。講演会の内容として Microsoft Teams を利用したオンライン形式で対応可能なことから、オンライン配信（当日参加が困難な方には録画映像を視聴できる URL を案内）での実施とさせていただいた。講師は本学情報デザイン学科の桐山岳寛先生である。桐山先生はインフォメーションデザインがご専門であり、情報を見やすくする、ということに関するプロフェッショナルである。本講演においても、どうすれば見やすい情報になるか、実例を交えながらわかりやすくお伝えいただいた。

ここで、今回の講演テーマを「見やすい講義スライドや資料の作成」に設定した経緯について軽く触れ

ておきたい。センターでは FD 活動の一環として、研究授業、授業研究会に取り組んでいる。その中でも度々熱心に議論されるのが「講義資料の見やすさ」である。対面授業では想定する必要のなかったオンラインやオンデマンドでの運用方法も含め、学生の視聴環境に配慮した資料の作成に、苦慮されている先生もおられた。こちらの意図した通りに情報が伝わる資料を目指しているのは当然であるが、思うように伝わらない時にどのようにしたらよいか…。見やすい資料、見やすさとはどういうことか、に関する指標のようなものがあれば、先生方の資料作成の一助となるのではないかと、このような経緯で今回のテーマを設定させていただいた。

講演では、言葉の扱いについても触れながら、対象が 100%同じように内容を理解できる資料作成について、インフォメーションデザインのポイントを踏まえて講演いただいた。情報の解釈を受け手に委ねず、自分の意図を正確に伝えることの大切さは、講義中の資料に限った話ではなく、他人に何かを伝える、というコミュニケーション全般において重要となるもので、その応用範囲は広い。その為の手法として、色の扱い、情報の優先度に応じた階層構造、配置といったデザインにおける基本的な考え方、手法などの説明がなされた。色の扱いに関してはやはり難易度が高く、色覚多様性など配慮すべきことも多い。色を使って強調表示しているつもりが却って見にくくなってしまった、という経験は誰もが一度はしたことがあるのではなかろうか。その他、1スライド1メッセージや、分かりやすい言葉による表現を心掛けるなど、講義資料として実現するにはそれなりにハードルが高いと感じられる内容もあったと思うが、実際のデザイン例を表示したり、モノクロで考えるとといった、デザインが専門ではない方にとっても分かりやすい判断基準を示していただいたことで、ひとまずできることからやってみよう、と思われた方も多かったのではないだろうか。

講演の後半には「ワーク」として、これまでの講演内容を活用して、実際に資料作成をおこなう時間も設けられた。あらかじめ桐山講師から配布されたサンプルデータを使い、「見やすい資料」の作成を目指す。

作成いただいたパワーポイントの資料については、手を挙げていただいた数名の方のデータを、全体に共有しながら桐山講師にアドバイスをいただいた。情報を階層にわけけるためにスライド枚数を増やすことなど、実際に活用するには経験や慣れが必要となる部分も見受けられたが、限られた作成時間の中でそれぞれが「見やすさ」について意識していることが良くわかる資料となっており、短時間でもポイントを押さえることで効果的な作業ができたように思う。

研究授業に参加した際に目にする実際の講義資料は、先生方がきめ細やかに配慮されて作成されていることが良くわかるものが多い。ただ残念なことに、そのような教員の思いや努力が、受講する学生に効果的に伝わっていないと感じる場面も少なくない。本講演で挙げられた「見やすさ」を実現するためのノウハウが、見やすい資料作成の一助となり、延いては授業内容のより良い理解に繋がってくれば幸いである。最後に、今回の FD 講演会に録画資料の視聴者も含め 120 名を超える方々にご参加いただいた。今後の講演会を企画する上で大変参考になる結果が得られたと考えている。改めて桐山講師をはじめ、ご参加いただいた方々に感謝申し上げます。

『2022 年度 FD 講演会に参加して』

教養部数学教室 岡 康之

2022 年度 FD 講演会「見やすい講義スライドや資料の作成」（講師：桐山先生）に参加して講師役の桐山先生から私が受け取ったメッセージは、（誤解を恐れず書くと）「プレゼンは、少しのことを意識すればすぐにでも、誰にでも大きな効果を出すことができる」可能性があるということである。そして、その「効果」は自分自身ではなく、受け手である相手に与える「優しさ」として現れるという点もとても魅力的に感じた。質疑応答時に、将来的に全学共通科目の一つの講義として今回の講演内容の講義が存在するようになれば、それはとても魅力的だという主旨の発言があったが、個人的には大賛成である。

前置きが少し長くなってしまったが、本講演は、

1. イントロダクション
2. 言葉について
3. 色彩について
4. レイアウトについて
5. ワーク
6. まとめ

で構成されていた。上記の 1～4 でスライド作成時に意識することや技法を、豊富な例とわかりやすい解説により享受し、5 のワーク（20 分）で課題（図 1）に取り組んでみるという内容であった。以下、本講演でご教示頂いた具体的な内容を、課題（図 1）に取り組むことで紹介してみる。課題にある「ブランド A のマーケティング戦略概要のスライド」を見やすくする工夫・意識として次の 4 つの点が挙げられていた。

1. 解釈を相手に委ねない。
2. わかりづらい用語は避ける。
3. 強調の仕方（モノクロにしたときをイメージする）。
4. 情報階層の明確化と情報のグループ化（配置）。

図 1 のようなスライドは、新入生用講義の FYS でプレゼン資料を学生に作成してもらうと似たようなものがよく提出される。それを上述の 4 つのことを意識し

ただで、素人の私でも図 1 よりは良さそうなスライド（図 2）が作成できた（と思っている）。特に、情報階層の明確化は、大見出しを太文字にし、さらに大見出しの文字の背景を黄色にして強調した。

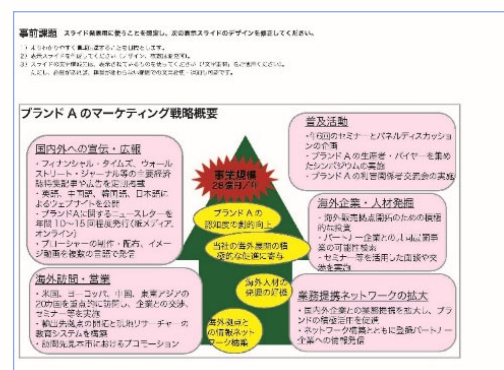


図 1. 課題

また、小見出しの文字の大きさを大見出しよりは小さくし、さらに下線を引くことで大見出しとの差別化を図った。これで、モノクロで印刷されたときも、大見出しと小見出しは区別可能と思われる。また、大見出しごとにグループに分けて枠で囲み、枠毎に背景の色を変えることで、直感的に4つのグ

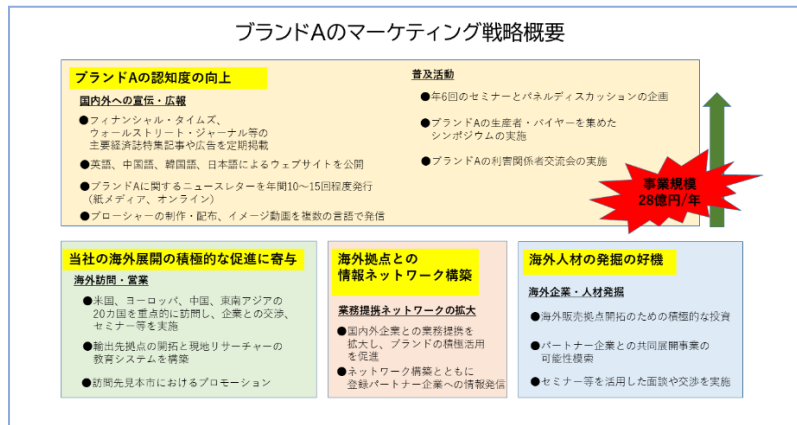


図2. 作成したスライド

ループに分かれていることが理解できるように配慮した(ただし、この部分に関しては、色分けに夢中になっていたせいか、モノクロ印刷した時に背景の4色に違いがでないことに気付いたのは講演会終了後であった。そのうえ、おそらくこの記事の授業批評掲載時もモノクロ…)。

どれも講演内で桐山先生が事例も踏まえてわかりやすく説明してくれた意識や技法を取り入れた。ワーク終了後には、ワークの時間に参加者が実際に作成したスライドに対し、桐山先生からコメントを頂ける機会が設けられ、その後、桐山先生ご本人が作成した課題に対するスライドを用いてさらに説明が加えられた。このワーク終了後のやり取りから、私が作成したスライド(図2)は、1枚の中にある情報量が多いことに気付かされた。また、「事業規模 28 億円/年」という最も強調すべきものがあまり目立っていないことにも気付かされた。おそらく、あと5ページほど追加して大見出しごとにスライドを作成すれば、より見やすいスライドが作成できるものと思われる(ページ数に関しては、あまり気にする必要はないということであった。それよりも、見易さを優先すべきということであった。)

閉会時の神保学長のご挨拶の中で、本講演会の内容はスライド作成だけに適用可能というわけではなく、例えば科研費に応募する際の書類作成にも適用可能であるというご指摘があった。本講演の内容は、「相手に見てもらう」多くの状況に対し適用可能な汎用性の高い内容であったと思われる。近い将来、スライド作成はAIが行ってくれる時代が来るかもしれない。そのような時代が来ても「なぜそうするのか」の理由を人間が理解しておくことは、自分らしいスライドや状況に応じた見やすいスライドを作成する際に重要になるはずである。最後に、今回のFD講演会の講師を務めて頂いた桐山先生、並びに、今回のFD講演会への参加の機会を与えて下さった関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

『見やすい講義スライドや資料の作成に寄せて』

学長 神保 睦子

今年度のFD講演会は、情報デザイン学科の桐山先生による「見やすい講義スライドや資料の作成」でありました。

3年に及ぶコロナウィルス感染症の拡大により、大学の講義は以前と大きく異なった形で行うことを余儀なくされました。特に遠隔授業の導入では、内容もさることながらインターネット環境の把握と大学の環境整備等をこじめることに最初は注力しました。しかし、1年、2年と長くなると遠隔授業で「教育の質の保証」を実現するために、先生がたはずいぶん工夫されて講義を行っていただいたことと思います。

今回の桐山先生の講演では遠隔授業だけでなく、いろいろな場面で役に立つ内容だったと感じました。特に、講義スライドだけでなく学会での発表や科研費等の申請書にも適用が可能であり、申請書はいかに短時間で審査員の方々に理解してもらうかが重要です。

普段は、漠然と分かっているつもりでしたが、

- ・言葉について
- ・色彩について
- ・レイアウトについて
- ・ワーク

と、整然と整理されてポイントを掴みながら説明されて大変理解しやすく、先生が多くの企業から講演を頼まれているのがなるほどと納得できました。

「言葉について」の中の、「受け手の知らない言葉は伝わらない」は講義で痛感したことが多々あります。例えば「定義して」と何気なく使用していた言葉が学生には理解できていなかったことに気づいたり、定期試験の問題文そのものが学生には分からなかったりと幾つも経験しました。学生に理解させるには、どのような言葉を使って説明すれば良いかを考えさせられました。

また、私が初めて学会発表をした頃は白黒のスライドを1枚1枚と数日かけて作成していました。そのため、今のようにはすぐには修正もできませんでした。その後、カラーを使えるようになりましたが、カラーを使ったことでかえって「分かりにくい」と指導教員から注意されことを思い出します。

今年度は、今のところ2回の講演依頼が予定されていますので、桐山先生の講演を参考にして以前と違った分かりやすいスライドを作成しようと考えています。

Section.Ⅲ 2022 年度研究授業・授業研究会開催実績

大同大学は、教育重視型大学としての使命を果たすために、全教員の授業の公開を原則とし、持続的に授業の改善と充実に努めることを定めた「大同大学授業憲章 2001」を制定しています。より良い授業を目指し本学教員相互による授業研究活動を行っており、大同大学における教員の教育資質開発と授業改善の方策を新たな段階に導いています。そのために、非常勤講師も含む個々の授業について検討する研究授業・授業研究会、および、複数授業間の連携を図る教育プログラム検討会を開催しています。

【研究授業／授業研究会】

| 回次 | 実施日時 | 授業担当者 | 科目名 | 研究授業 参観者数 (名) | 授業研究会 参加者数 (名) |
|---------|-----------|------------------|------------------|---------------------|----------------------|
| 第 308 回 | 4/26 (火) | 宇野 享 (教授) | 建築設計 3 | 10 | 13 |
| 第 309 回 | 5/19 (木) | 君山 博之 (教授) | 情報ネットワーク 1 | 13 | 12 |
| 第 310 回 | 5/26 (木) | 桐山 岳寛 (講師) | デジタルデザイン論 A | 5 | 5 |
| 第 311 回 | 6/6 (月) | 小屋 菜穂子 (准教授) | 健康科学 A | 14 | 12 |
| 第 312 回 | 6/24 (金) | 町屋 修太郎 (教授) | 機械設計製図 | 9 | 13 |
| 第 313 回 | 6/30 (木) | 篠原 主勲 (教授) | デジタルエンジニアリング 3A | 8 | 10 |
| 第 314 回 | 10/5 (水) | 藤森 繁 (准教授) | 建築環境材料 | 11 | 12 |
| 第 315 回 | 10/10 (月) | 浦井 一 (教授) | パワーエレクトロニクス | 12 | 10 |
| 第 316 回 | 10/19 (水) | 木全 博聖 (講師) | 土木構造力学 | 14 | 14 |
| 第 317 回 | 11/04 (金) | 颯田 尚哉 (教授) | 消脱臭原理 | 8 | 10 |
| 第 318 回 | 11/10 (木) | 喜田 健司 (准教授) | アルゴリズムとデータ構造 1 | 13 | 12 |
| 第 319 回 | 11/29 (火) | 押山 晶子 (非常勤講師) | 基礎音楽論 | 12 | 10 |
| 第 320 回 | 12/21 (水) | 伊藤 僚 (准教授) | スポーツ情報プロジェクト演習 3 | 10 | 10 |

【教育プログラム検討会】

| 回次 | 実施日時 | 学科 | 研究・検討内容 | 参加者数 (名) |
|--------|----------|--------|---|-------------|
| 第 20 回 | 5/30 (月) | 総合情報学科 | 総合情報学科の経営情報コースとスポーツ情報コースのカリキュラムについて有機的な共通科目、専門科目の設定および内容について検討する。 | 17 |

Section. IV 2023 年度研究授業・授業研究会開催予定

大同大学では、FD 活動のさらなる飛躍を期し、学外の皆様の幅広いご意見をいただくこととしています。学外の方もご参観いただくことが可能です。2023 年度は、以下の日程で開催します。参観を希望される方は、下記よりお申し出くださいますようお願いいたします。

《申し込み・問い合わせ先》

大同大学教育開発・学習支援センター

電話： 052-612-6118

E-mail： cti@daido-it.ac.jp

時間： 8:30~17:00

【研究授業／授業研究会】

| 回次 | 実施日時 | 授業担当者 | 科目名 |
|---------|-----------|----------------|------------|
| 第 321 回 | 5/8 (月) | 原科 浩 (教授) | 力学 1 |
| 第 322 回 | 5/26 (金) | 加藤 聡一 (教授) | 教育原理 |
| 第 323 回 | 6/6 (火) | 石田 敏彦 (准教授) | 創造製作演習 |
| 第 324 回 | 6/26 (月) | 服部 佳晋 (教授) | 電子回路 1 |
| 第 325 回 | 11/13 (月) | 岡田 心 (教授) | 造形デザイン演習 2 |
| 第 326 回 | 11/23 (木) | 藤井 浩明 (教授) | 情報統計学 1 |
| 第 327 回 | 12/6 (水) | 松井 豊次 (教授) | 資格英語 2 |
| 第 328 回 | 12/15 (金) | 白石 裕之 (教授) | 熱移動工学 |

【教育プログラム検討会】

| 回次 | 実施日時 | 学科 | 研究・検討内容 |
|--------|----------|-------------------------|--|
| 第 21 回 | 6/21 (水) | 建築専攻 インテリア デザイン専攻 | ・2024 年度新カリキュラムの新設科目の教授内容および演習内容に関する検討 ・セミナ科目の 5 段階評価移行に伴う成績評価基準と評価方法に関する検討 |
| 第 22 回 | 6/28 (水) | 機械工学科 | 24 カリキュラムに PC 必携化をどのように反映させていくかの検討 |

| | | | |
|--------|----------|----------|---|
| 第 23 回 | 7/11 (火) | 情報システム学科 | 24 カリの編成に合わせて、これまでに行われてきた情報演習の授業内容を見直し、24 カリのキーワードであるサイバーフィジカルシステムの授業内容を取り入れた演習内容について検討する |
| 第 24 回 | 7/14 (金) | 土木・環境専攻 | (仮題) 卒業研究 – 指導困難な学生にどう向き合うか– |

以上